

【別紙1】 2018年度・KESエコロジカルネットワークの取組み

希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- * A～D, F～Iの中から希望する種を選択できます(複数可)。(2018年度はオミナエシは扱いません。)
ただし、F, H, Iの3種については、セット数に限りがあるため、申し込み順とします。
- * 2014～17年度に栽培している種があれば、2018年度での継続栽培も可とします。
- * 自事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- * 社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- * 植物の株は、すべて、京都市及びその周辺の産地に由来するものです。栽培セットの経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物保全のための事業に活用しています。
- * 「活用」の方法は、各団体と調整のうえお知らせします。野生復帰(かつての自生地への再導入)に活用させていただく場合もあります。
- * 栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、一般財団法人葵プロジェクト

A フタバアオイ (ウマノスズクサ科 多年草)



1400年続く葵祭に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。一般財団法人「葵プロジェクト」(上賀茂神社内)などによって保全繁殖が図られています。

- ◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも可能。
- ◆**花期**：3月～5月
- ◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納していただくと、「葵祭」で使われます。
- ◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 5,000円

B フジバカマ (キク科 多年草)



源氏物語にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物ですが、府内ではほとんど見られなくなりました。一般に流通するのは別種。葉は香料となり、海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好むことでも知られます。KBS京都・緑化協会、各地の保全団体などが栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)
京都府レッドデータブック：絶滅寸前種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。
- ◆**花期**：(鉢植) 9月下旬～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
5株+容器等 5,000円

C ヒオウギ (アヤメ科 多年草)



鮮やかな朱色の花が祇園祭に合わせてように咲き、厄除け・魔除けとして鉾町などに飾られます。葉は扇が開いたような形です。タネは漆黒で、「ぬばたま」「うばたま」の別名があります。一般にはこれより背が低い変種(ダルマヒオウギ)の系統が流通しています。

環境省レッドデータブック：記載なし
京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。比較的乾燥にも強い。
- ◆**花期**：7月中旬～9月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 3,000円

D キクタニギク (キク科 多年草)



京都の東山を流れる菊溪(菊谷)川の河川敷に、かつて自生していたことが和名の由来です。江戸時代まで川の周辺は文人も訪れるキクの名所でしたが、現在は環境の変化で自生は確認できません。明るい葉色で、晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。風通しに注意します。
- ◆**花期**：10月下旬～11月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。(2016年度は京都伝統文化の森推進協議会・京都市主催「キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ」に活用予定)
- ◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 3,000円

F カワラナデシコ (ナデシコ科 多年草)



秋の七草の一つ。別名「大和撫子」は近縁の唐撫子(石竹)に対する名ですが、東アジアに広く分布する植物です。5枚の花弁の先が糸状に細かく分裂する優美な姿をしています。早ければ初夏に咲き始めるため、夏の季語にもなります。環境省と京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、7都府県で絶滅のおそれがある種に区分。府内でも自生地が減っています。

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。水はけ、風通しに注意します。
- ◆**花期**：6月～9月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 2,500円
*20セット限定です。

G アヤメ (アヤメ科 多年草)



「いすれあやめかかきつばた」と言われるほど、美しい花を咲かせます。花が似るカキツバタ、ハナショウブは水生なのに対し、アヤメは陸生です。また花の黄と紫の文目の模様でも見分けられます。

近年シカの被害を受けて減り、府レッドデータブックでは準絶滅危惧種(2002)から絶滅危惧種(2015)にランクアップ。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

◆**育て方**：よく日の当たる風通しの良い場所で。鉢植えでも育てやすい植物ですが、毎年の植替えが必要です。

◆**花期**：5月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 3,000円

H ワレモコウ (バラ科 多年草)



秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。わびさびを感じさせる地味な姿や色合いから、茶花、生け花としてもよく使われます。根・根茎を天日乾燥させたものは、生薬となり、吐血、下痢、やけどなどの治療に用いられます。若い葉は食用にもなりました。東アジア、シベリア、欧州に広く分布。京都周辺では、近年、自生地の丘陵などで見かけることが減っています。

◆**育て方**：日当たりを好みます。水はけ、風通しに注意します。

◆**花期**：7月～10月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：
2株+容器等 2,500円
*10セット限定です。

I クリンソウ (サクラソウ科 多年草)



五重の塔など仏塔の頂上を飾る金属製の「相輪」の一部分「九輪」のように、花茎を囲んで、紅紫色の花が何段かの輪になって咲きます。中世には「宝幢花(ほうとうげ)」と呼ばれ、これも仏教にちなむ名前です。

日本と台湾に分布。谷間の湿地や河川敷に群生し、しばしば寺院や、山あいの農家で栽培されます。19世紀、「プリムラ(サクラソウ類)の女王」と欧州で紹介され、様々なプリムラの品種の元ともなりました。

環境省レッドデータブック：記載なし

京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：春から秋にかけては、深い鉢皿に水を張り(腰水)、水を切らさないようにして育てます。夏は半日陰を好みます。

◆**花期**：4月～5月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：
3株+容器等 3,000円
*20セット限定です。